

令和元年12月3日

瀬戸市議会議長 長江秀幸 様

総務生活委員会委員長 高島 淳

総務生活委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察期間・行程	令和元年11月11日（月）～11月12日（火）
2 視察先及び視察項目	岡山県倉敷市・・・ごみ減量化事業について 岡山県岡山市・・・小学校跡地整備事業について
3 視察者及び随行者	総務生活委員会委員（8名） 議会事務局（1名）
4 その他	なし

ごみ減量化事業について

<p>1 事業の目的及び経緯</p>	<p>平成4年3月から導入を開始した5種14分別収集を基本とし、ゴミの資源化の推進と多様な施策展開による適正処理の確保</p>
<p>2 事業の概要及び事業費</p>	<p>平成17年度から稼動している資源循環型廃棄物処理施設での再資源化により、搬入された一般廃棄物が全てリサイクルされることにより、リサイクル率は大きく向上した。平成29年度のリサイクル率は43.0%であり、同規模の自治体と比較するとトップクラスの水準で推移している。平成22年に策定、平成27年2月に改定した「一般廃棄物処理基本計画くらしキック20～ごみ減量への挑戦～」に基づき、「環境最先端都市くらしき」を目指すべく、継続的な施策展開を推進している。</p> <p>(1) 5種14分別収集ごみの適正処理と減量・資源化及び焼却施設・最終処分場の延命化を図るため、5種14分別収集《燃やせるごみ・資源ごみ（無色透明のびん・茶色のびん・その他の色のびん・ガラス類・空きかん金属類・新聞・雑誌・ダンボール・紙パック・古布類）・埋立ごみ・粗大ごみ・使用済み乾電池》を平成11年7月に市内全域で実施となった。平成11年10月からペットボトルの店頭拠点回収を開始。合わせて、ガラス類（板ガラス・ガラスコップ）の資源化を中止。平成18年10月から雑がみの出し方に紙袋の使用を追加し、平成20年度4月からペットボトルはラベルとキャップを外して出すようにし、合わせて古布類の出し方に無色透明又は半透明の袋でストックキングを除く衣料全般を対象とし、リサイクルの推進と市民の利便性を考慮して出し方を変更した。また、平成21年10月から、ペットボトル・シュレグダーくず（紙）・紙パック（酒・調味料）・化粧びんを資源ごみとしてごみステーション収集を開始した。平成22年3月には、「倉敷市行政情報多言語化事業」の第一弾として、「家庭ごみの出し方」の英語版・中国語版・ポルトガル語版を作成し、在住外国人への啓発を推進した。平成28年12月に環境省モデル事業として水銀使用製品の一部（体温計・温度計・血圧計）について、薬局等での店頭回収を実施。平成29年7月から、蛍光管を資源ごみとしてごみステーション収集を開始した。</p> <p>(2) 地域美化推進員制度</p> <p>平成8年10月にモデル事業として環境衛生協議会の52支部に各1名を委嘱してスタートしたリサイクル推進員制度は、ポイ捨て防止推進員制度と制度統合を行い、平成19年4月からは「地域美化推進員制度」として、地域のごみ減量・資源化の推進を図っている。なお、本制度における推進員は、環境衛生協議会員から180名を選任している。</p>

	<p>(3) ごみ減量化協力団体報奨金交付制度</p> <p>ごみの減量対策として、再生資源物の集団回収を行う P T A, 子ども会等の団体の活動を奨励し、ごみの減量と資源の再利用のため「ごみ減量化協力団体報奨金交付制度」を設け、昭和63年10月1日から実施している。</p>
3 事業の効果	<p>ゴミ減量化の進め方は5種14分別</p> <p>① 燃やせるごみ ② 資源ごみ ③ 埋め立てごみ ④ 粗大ごみ ⑤ 使用済み乾電池</p> <p>②の資源ごみに関してはさらに10種類に分別している。分別についてはこれらのうち資源有効利用促進法に基づき、容器包装廃棄物の再商品化を促進するため、一般廃棄物の減量、再生資源の利用を通して、廃棄物の適正な処理と資源の有効な利用の確保を図り、生活環境の保全や地域経済の健全な発展に寄与している。このため、消費者は市のルールに従って分別し排出する。市は容器包装廃棄物の分別収集事業者が分別収集したものをリサイクル化をする仕組みであり、平成30年度は605tのペットボトルのうち573tを売却して2445万円の収入を得た。</p> <p>家庭でゴミを排出するときには地区ごとに指導員を配置して分別やごみ減量について指導を行なっている。家電リサイクルについては処分するものを郵便振込で支払い廃家電を小売業者や市が引き取る。市は49.1万トン(1170万台)の廃家電から42.2万トンの鉄や銅、アルミが再生され、ブラウン管のガラスなど、再商品化した小型家電については、携帯電話端末など電気機械器具を28の分類で30年度は約、623t回収し、指定業者に470万円で売却し、収益を得ている。</p>
4 事業の現時点での課題及び今後の方向性	<p>ごみ焼却のためのガス化熔融炉を設置したことにより、ガスはコンビナートへ、スラグ・メタルは建設路盤材にリサイクルされる。しかし、ゴミを大量に集めないで炉の温度が保てないため、産廃ごみも燃焼の対象にしている。</p>
5 主な質疑・応答	<p>家庭用品再利用銀行の事業内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭用品再利用銀行(市民の譲りたい、譲ってほしい)の情報の受付と紹介を行なっている。 <p>クルクルセンターの活用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 倉敷市はリサイクル推進センター(愛称クルクルセンター)を設置し、ごみ減量、リサイクル、環境問題に関する情報を発信し、ごみがどのように処理されているのかを目で見てわかるパネルなどを設置し、啓発活動に勤めている。

	<p>また、リサイクル体験室、リサイクル学習、修理再生室、など様々なリサイクル啓発に取り組んでいる。さらに廃食用油リサイクルプラントでは平成30年度、20830リットルのBDFを生成し、リサイクル事業に関連する車両に使用している。この施設では毎年、10月にイベントを行い、6000人の来場者がある。</p> <p>ごみ減量化協力団体報奨金制度の活用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ減量化共同団体報奨金は家庭から出るごみの中から、PTA子供会、町内会などから1キロあたり、6円を支払っている。登録団体は1115団体、回収は11880tであった。
<p>6 考察 (所感・本市への提言等)</p>	<p>ゴミの減量化については大量生産、大量消費、大量廃棄を止めることが大切だと考える。本市においても住民の皆さんにさらなるゴミの減量化についての啓発活動をしていくことが必要。</p> <p>倉敷市の例はゴミ減量化にも寄与し、ゴミ処理費への適切な取り組みであり参考にすべきである。</p> <p>倉敷市の家庭ごみの出し方の冊子について区分と出し方が細かく指示されていることが、結果としてゴミの排出抑制につながっていると感じられた。</p> <p>市の規模は本市とは異なるが、リサイクル率全国3位は素晴らしい。本市と考え方や、体制は違うが、リサイクルのまちとして定着しており、市民意識の向上、区分が非常に細かいゴミの出し方など、参考になった。</p> <p>また、今後予測される、晴丘センターの延命工事に伴う、2炉の停止は市民生活に大きな影響を与えるものであり、先進市視察により他市の取り組みに学ぶべきことは大きい。本市はゴミ減量問題も危機的状況にあり、参考にしていきたい。</p>
<p>7 その他 (特記事項等)</p>	

小学校跡地整備事業について

<p>1 事業の目的及び経緯</p>	<p>岡山市内の小学校児童数の減少により、平成12年に「中心部の新しい学校づくり基本計画」が発表され、翌年、出石小学校廃校後の要望書が出された。地元の協議会と協力の上暫定活用を開始。「学校跡地活用の観点」「出石小跡地活用の考え方」についてパブリックコメントを募集 平成15年実施方針発表。プロポーサル募集要項発表 平成16年優先交渉権者の発表 平成20年竣工</p>
<p>2 事業の概要及び事業費</p>	<p>事業の趣旨 行政が地元住民等の参画のもとで基本的な方針を定め、その方針に沿って民間による土地活用を目的とする事業コンペを行って、跡地の有効活用を実現しました。事業コンペにあたって岡山市は条件設定のための詳細な調査を行い、また選考過程の透明性・説明性にも十分配慮するなど、公的用地活用におけるPPPのモデルとなる事業と思われる。</p> <p>事業の概要 出石小学校等の跡地において、地域の持つ優れた条件を活かし、魅力的な空間を確保するとともに、公共性が高く、中心市街地活性化・定住推進等に寄与する施設の整備を行うため、定期借地権を設定し、広く民間事業者から、この跡地に最もふさわしく、かつ事業性の高い事業提案を求めた。そして選定された事業者が自ら施設建設を行い、定期借地期間中施設の運営を行う。</p> <p>事業手法 事業手法定期借地権による民間事業者への土地の賃貸借借地期間54年間 事業実施区域 13,559 m² 定期借地権設定区域 9412.39 m² 当初の賃料年額 25,678,000 円／年3年ごとに見直し</p> <p>施設の内容 (1) 定期借地権付分譲マンション RC造 12階建 66戸 (2) 賃貸マンション RC造 11階建 74戸 (テナント1戸を含む) (3) 屋上庭園付立体駐車場 S造 3階建 178台 (4) 介護付有料老人ホーム S造 4階建 54室</p>

	<p>(5) スポーツクラブ S 造 3 階建</p> <p>(6) 公共整備工事コミュニティ施設 S 造 2 階建 (既存施設の建替え) 公園 (公園を小学校の校庭の一部として使用していた部分の整備) ※(1)から(5)までの施設が定期借地権設定区域内の施設。(6)の施設は事業者整備後に市に引き渡す。</p> <p>事業者代表企業両備ホールディングス(株)構成員(株)大林組、(株)コナミスポーツ&ライフ、(株)ベネッセスタイルケア、広成建設(株)</p> <p>総事業費約 42 億円</p>
3 事業の効果	<p>本事業の特徴は、底地は岡山市所有のままとし、公園・福祉施設等は市直営、老人ホーム等は一般的定期借地で、分譲集合住宅は、転定期借地権付分譲と、複数の土地に関する手法を組み込んで土地の有効活用を実現したことにある。</p> <p>全施設を敷地外周道路沿いに配置し、利便性を高めるとともに、すべての施設が地域中央部に配置された立体回遊式型庭園「里丘」と接続し、緑と一体となった快適な回遊導動線を形成したことで、学校に代わる地域コミュニティの核として、居住者や訪問者のコミュニケーションを維持発展させています。</p>
4 事業の現時点での課題及び今後の方向性	<p>事業は終了しており、現時点では大きな課題はないと思われる。事業としては非常にうまくいった事例であり、各方面とも合意の上進められていた。</p>
5 主な質疑・応答	<ul style="list-style-type: none"> ・ PPP 方式民間活力の導入について 計画的に住民の声が取り入れられている。特に若い人の住空間の設定がされている。 ・ より安い市営住宅などの工夫はされたか 一定期間に住民の声をまとめて実行された。 ・ 岡山市中心部であるが人口の減少について 大型店舗、オフィスの進出により、ドーナツ現象が起き、人口減少につながった。 ・ 地元の要望については 地元の自治会などは非常に協力的で、跡地の暫定利用も含め非常にスムーズに事業が進んだ。
6 考察 (所感・本市への提言等)	<p>現地を見せていただいたが、スポーツクラブ、分譲・賃貸マンション、公園、里丘 (立体駐車場の最上階を階段状に</p>

	<p>し、ミニ公園を作った)、保育所、老人ホーム、コミュニティ施設、図書館、歩行者・自転車の通り道、また新しい店舗の張り付きもあり、充実した場所になっている。旧小学校の正門を残してあり、歴史も感じられる。また、広がった公園は地域の様々なイベントに活用されている。</p> <p>今回は、結果的に PPP 方式となったが、まちづくりの成功例として参考にしたい。</p> <p>中心市街地という立地条件でもあり、非常にうまく事業が進んだ例でもある。本市としても参考になる事例が多数あるものと感じた。</p>
<p>7 その他 (特記事項等)</p>	